

2026 年 8 月 31 日

三菱ガス化学株式会社

クボタが提供する稲わら由来バイオガスからの バイオメタノール製造を実施

三菱ガス化学株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:伊佐早 禎則 以下、当社)は、株式会社クボタ(本社:大阪市北区、代表取締役社長 CEO:花田 晋吾 以下、クボタ)が秋田県にて研究を進めている「稲わら資源循環システム」において発生した「稲わら由来のバイオガス」を原料とした環境循環型メタノールの製造試験を当社新潟工場で行いました。

当社は、排出 CO₂ や廃プラスチック、バイオマス等をメタノールとして再資源化する環境循環型メタノールプラットフォーム「Carbopath™」を掲げ、新潟工場(新潟県新潟市北区)において、新潟市から提供される下水由来の消化ガスを原料にバイオメタノールを製造するなど、広く自治体や関連産業との提携を進めています。^{※1}

クボタは、環境省「地域資源循環を通じた脱炭素化に向けた革新的触媒技術の開発・実証事業」^{※2}において、京都大学や早稲田大学と連携し、2022 年度より稲わらからバイオ燃料や肥料(バイオ液肥)を製造して農業や家庭で利用する地域資源循環システムの構築に向けた研究を、秋田県大潟村において進めています。^{※3}

本共同試験は、クボタが研究を進める地域資源循環システムにおいて発生した稲わら由来バイオガス(主成分:メタン、二酸化炭素)を当社新潟工場で行い、当社が製造する環境循環型メタノールの原料として用いることで、化学品原料としての有用性を確認したものです。

< 共同試験について >

概要	クボタが秋田県大潟村で実施している研究により発生した稲わら由来のバイオガスを、MGC が新潟の自社プラントに輸送しバイオメタノールの製造試験を実施
実施期間	2026 年 3 月 9 日～8 月 1 日



バイオガスの製造に用いられる稲わら(クボタ提供)



当社新潟工場のメタノールプラント

当社はメタノールを基幹原料として、ホルマリンなどの化学品やポリアセタールなどのプラスチックへと展開する事業を長年にわたり推進してきました。当社マテリアリティ「環境問題への積極的・能動的対応」の一環として推進している環境循環型メタノールプラットフォーム「Carbopath™」において、稲わらという農業残さも原料として利用可能となることは、農業分野も含めた資源循環のさらなる拡大と温室効果ガスの排出削減に貢献するものと期待されます。

当社はミッション「社会と分かち合える価値の創造」のもと、クボタを始めとする様々なパートナーと協調しながら、環境問題解決への積極的な参画を行い、持続可能な社会に貢献してまいります。

以 上

【ご参考】

※1. 当社ニュースリリース:「国内初、消化ガスからのバイオメタノール製造を開始」

<https://www.mgc.co.jp/corporate/news/2024/240620.html>

※2. 環境省ホームページ:「令和4年度地域資源循環を通じた脱炭素化に向けた革新的触媒技術の開発・実証事業の公募採択案件について」

<https://www.env.go.jp/press/110715.html>

※3. 株式会社クボタニュースリリース:「秋田県大潟村で稲わらからバイオ燃料などを製造する実証プラントが稼働」

<https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240530.html>

本件に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社 総務人事部広報グループ
TEL : 03-3283-5040 <https://www.mgc.co.jp>

